

「支援対象者事情提供書」受理台帳より

① 相談者(本人)の(年齢)×(性別)

令和元年度

年代\男女	男性	女性	合計
0~19才	18	32	50
20~29才	32	102	134
30~39才	33	43	76
40~49才	42	69	111
50~59才	32	51	83
60~69才	23	13	36
70~79才	12	22	34
80才以上	10	14	24
不明	0	0	0
合計	202	346	548

令和2年度

年代\男女	男性	女性	合計
0~19才	30	55	85
20~29才	41	101	142
30~39才	43	60	103
40~49才	32	68	100
50~59才	18	47	65
60~69才	13	11	24
70~79才	15	19	34
80才以上	13	11	24
不明	0	0	0
合計	205	372	577

- ※ 令和元年度の対象者は548人、2年度は577人で29人増加
- ※ 男性は微増であったが、女性が26人増加
- ※ 0~19歳が50人から85人と35人増加、40歳未満の若年層で260人から330人と70人増加

② 学生区分

続柄	令和元年度	令和2年度
小学生	0	1
中学生	6	19
高校生(府立高校)	5	9
高校生(府立高校以外)	17	16
大学生	14	15
専門学校生	6	6
合計	48	66

※中学生が令和元年度6人から2年度19人と13人増加

③ (年齢・性別)×(未遂手段内訳) ※複数選択

	年代	性別	①過量服薬	②刃物	③飛び降り	④首つり	⑤有機溶剤	⑥その他(未遂行為あり)	⑦その他(未遂行為なし)	⑧不明	⑨練炭	合計	
R元	0~19才	男性	2	3	0	0	1	2	10	1	1	19	53
R2		女性	10	8	4	1	0	1	10	0	0	34	
R元	20~29才	男性	3	3	7	3	0	2	12	1	0	31	87
R2		女性	16	10	6	4	0	2	16	1	1	56	
R元	30~39才	男性	8	2	5	9	0	3	4	2	0	33	142
R2		女性	43	30	5	3	0	9	19	0	0	109	
R元	40~49才	男性	6	6	3	8	0	4	13	1	1	42	112
R2		女性	38	21	7	7	1	6	22	0	2	104	
R元	50~59才	男性	7	8	7	3	0	1	8	0	0	34	79
R2		女性	14	11	3	4	0	2	11	0	0	45	
R元	60~69才	男性	6	15	0	3	0	5	13	1	1	44	110
R2		女性	28	13	4	8	0	4	7	1	1	66	
R元	70~79才	男性	8	10	7	2	0	3	11	1	0	42	112
R2		女性	24	20	2	3	0	4	17	0	0	70	
R元	80才以上	男性	7	4	3	9	1	4	6	0	0	34	102
R2		女性	20	17	3	6	0	6	16	0	0	68	
R元	0~19才	男性	4	13	1	3	0	2	9	0	0	32	84
R2		女性	11	15	2	2	0	5	17	0	0	52	
R元	20~29才	男性	3	3	1	1	0	4	6	0	0	18	67
R2		女性	15	8	6	3	0	6	11	0	0	49	
R元	30~39才	男性	3	4	3	3	0	1	10	0	0	24	37
R2		女性	6	4	1	1	0	0	1	0	0	13	
R元	40~49才	男性	2	4	1	1	0	0	4	0	1	13	25
R2		女性	1	4	0	1	0	2	4	0	0	12	
R元	50~59才	男性	2	5	1	2	0	1	1	0	0	12	34
R2		女性	8	6	1	0	1	4	2	0	0	22	
R元	60~69才	男性	1	4	2	3	0	0	5	1	0	16	35
R2		女性	5	5	2	2	0	1	4	0	0	19	
R元	70~79才	男性	1	3	0	1	0	3	2	0	0	10	25
R2		女性	9	2	0	1	0	1	2	0	0	15	
R元	80才以上	男性	0	3	1	1	0	2	6	0	0	13	24
R2		女性	1	4	1	0	0	3	2	0	0	11	
R元	合計		160	144	42	38	2	42	134	4	0	566	
R2	合計		152	124	47	60	2	51	147	6	7	596	

- ※手段としては、①過量服薬と②刃物(多くはリストカット)が多いが、令和元年度に比べて2年度はどちらも減少。
- 一方で、③飛び降りと④首つりが増加しており、既遂に至る可能性の高い手段を選ぶ傾向がみられる。
- 特に19歳以下で、その傾向が顕著にみられる。

④ (年齢・性別) × (原因動機) ※複数選択

	年代	性別	①家庭	②健康	③経済・生活	④勤務	⑤男女	⑥学校	⑦その他	⑧不明	合計
R元	0～19才	男性	3	3	0	1	3	3	5	2	20
		女性	11	6	0	1	5	7	4	2	36
R2		男性	10	4	0	4	2	8	6	4	38
		女性	14	16	1	2	9	12	6	8	68
R元	20～29才	男性	8	7	4	6	3	3	5	0	36
		女性	20	44	2	10	22	2	10	9	119
R2		男性	10	14	6	12	4	1	1	3	51
		女性	20	40	6	6	28	1	9	12	122
R元	30～39才	男性	6	14	5	7	2	0	3	3	40
		女性	18	11	1	5	7	0	5	3	50
R2		男性	7	11	6	7	6	0	3	7	47
		女性	20	28	8	3	7	1	2	3	72
R元	40～49才	男性	9	15	8	5	3	0	3	7	50
		女性	17	36	2	3	5	0	9	8	80
R2		男性	8	10	7	6	0	0	4	3	38
		女性	23	32	3	1	6	1	6	7	79
R元	50～59才	男性	3	18	8	1	2	0	4	3	39
		女性	18	27	4	2	0	1	3	5	60
R2		男性	3	8	0	3	1	0	3	3	21
		女性	17	20	6	1	4	0	2	6	56
R元	60～69才	男性	3	13	6	2	0	0	1	1	26
		女性	4	7	0	1	1	0	3	0	16
R2		男性	2	6	1	2	0	0	3	0	14
		女性	2	7	0	0	0	0	0	2	11
R元	70～79才	男性	1	10	1	0	0	0	0	0	12
		女性	3	16	1	0	0	0	4	0	24
R2		男性	7	7	0	0	0	1	4	0	19
		女性	6	12	0	0	0	0	1	0	19
R元	80才以上	男性	2	7	0	0	0	0	0	1	10
		女性	6	8	1	0	0	0	2	0	17
R2		男性	6	6	0	0	0	0	1	0	13
		女性	5	5	1	0	0	0	0	1	12
R元	合計	132	242	43	44	53	16	61	44	635	
R2	合計	160	226	45	47	67	25	51	59	680	

※原因動機として、②健康問題が多いが、令和元年度に比べて令和2年度は減少。

一方で、①家庭問題 ⑤男女問題 ⑥学校問題が増加。

※19歳以下の男性は①家庭問題 ⑥学校問題、女子は②健康問題 ⑤男女問題 ⑥学校問題の増加が顕著。

20～29歳の男性は②健康問題 ④勤務問題の増加が顕著。

30～39歳の女性は③経済・生活問題の増加が顕著。

⑥ 「支援終了」類型別 内訳

「支援就労」類型別	令和元年度	令和2年度
対象者の死亡（自殺既遂）	6	7